

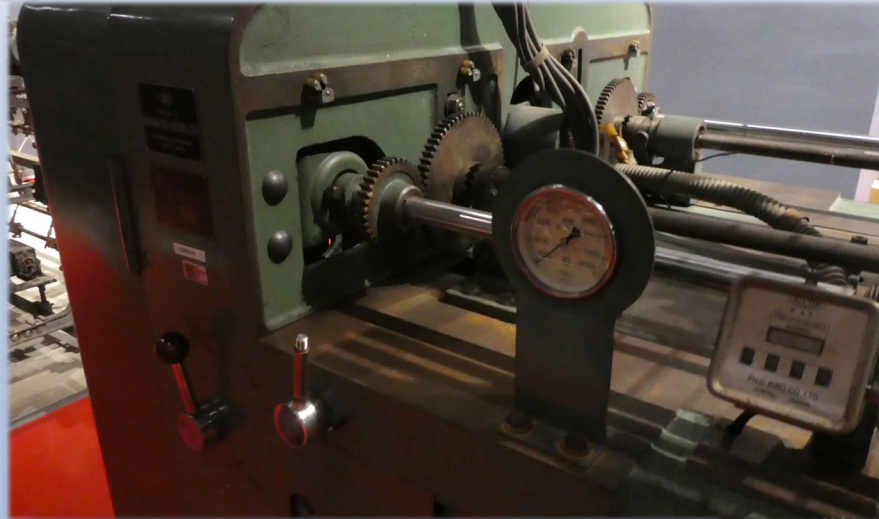
「労働観の表象と変遷に関する比較歴史社会学的研究」
研究代表 荒川 敏彦教授

通過儀礼の一要素としての労働と経営

江戸時代から大正時代における米沢の繊維産業を対象に

千葉商科大学
商経学部経営学科
准教授 松下幸生

問題意識



なぜ 米沢の繊維産業に注目するのか？

- ① 江戸時代から大正時代を過ごしていた民の「労働観」を、現代の「労働」の観点から解釈することに対する疑義
 - ・お勤め、労役、年貢（納税相当）、商工
- ① 多極化する可能性のある（基本的価値を共有する国家群のみで労働を捉えるという意義の相対的な低下が見込まれる）将来を鑑みると、西洋型と日本型の理解に留まるのではなく、アジア型などにも適用できる概念の模索も期待されているのではないか

米沢の繊維産業の歴史

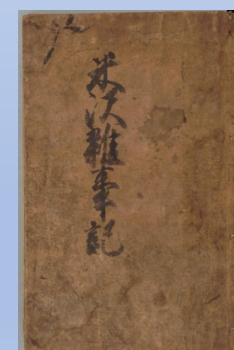
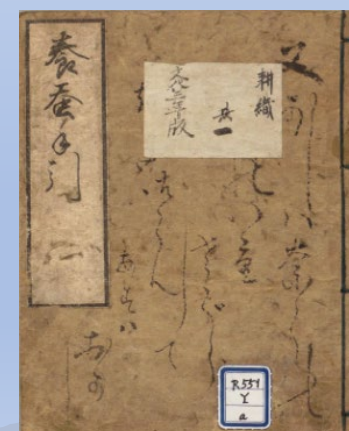
(江戸時代～大正時代)

一部、昭和初期を含む

- 米沢に注目する理由
- 江戸時代後期 繊維産業
明治時代 繊維産業
大正時代 繊維産業



上杉城史苑



市立米沢図書館デジタルライブラリー所収

なぜ 米沢の繊維産業に注目するのか？

① 小規模事業所の多さと製造品出荷額の相対的な低さ

事業所19.5%（55事業所）、従業者数7.9%、製造品出荷額等1.1%

『[令和2年 米沢市の工業 工業統計調査結果報告書](#)』の「[2. 調査結果の概要](#)」より

② 洋装と和装の併存している地域

[人絹発祥の地](#)であるとともに生糸工場も操業

③ 資料の蓄積の多さ

地場産業の形成過程、江戸時代後期から近年に至る暮らしの記録

武家、農家、職工に分けたかたちで大枠を整理可能

④ 上杉藩の影響を今も残している

⑤ 産業関連の委員会のメンバーに繊維産業（地場産業）も参加しており、産業、観光業が令和時代においても一定の影響を有している

米沢の繊維産業（江戸時代）

- ① 青苧から絹
職人の招聘
- ② 上杉治憲藩主 小野[1990], p.194.
桑の植樹、殖産興業、大俵約令、藩校（興讓館）の創設、
農業開発・治水、下級武士や農家の内職が盛んになる
竹俣当綱国家老の進言によって推進
製織技術の模索を経て「縮布」の生産に至る
- ③ 青苧による麻織物から絹織物に移行
過渡期 寛政4年（1792年）前後
改良期 文化時代（1804～1818年）
蚕種、養蚕、製糸、糸織、米沢織の隆盛
全盛期 文政時代・天保時代（1818～1830年・1830～1844年）
- ④ 販路の拡大
- ⑤ 環境の悪化と苦境、好況

米沢の繊維産業（明治時代）

- ① 上杉家が15,000円の私財を投じるかたちで舘山村に米沢製糸場（華士族結社所有）を建設 1877年
 - ・ 上杉茂憲伯爵が大久保利通卿の訪問を契機に、製糸場建設の緊急性を痛感。
 - ・ 日本を欧米列強に比肩させる富国強兵の一環。
- ② 水車機の発明 発明者: 佐々木右衛門氏
 - ・ 米沢製糸場の約2倍の生産効率。1880年時点
- ③ 金禄公債を原資に武士から機業に移行 渡部・小沢編[1980], p.223. p.242. p.267.
 - ・ 織機（公債機）や生糸の購入に充てる。
 - ・ 400軒超の機業の8割以上は士族だった模様。
- ④ 商人、武士を中心に資本家が増える
下級武士の妻女を含む農民を中心に労働者が増える

出自の混在する労働観。一面的な解釈から捉え難い。

米沢の繊維産業（大正時代）

① 製糸場の厳しい労働環境

『綿糸紡績職工事情』

- ・ 寄宿工等の逃亡者数の多さから当時の基準でも厳しい労働環境
- ・ 瞬間的だが、1917年下期に傾奇者が出現
休日の無声映画の観覧が流行る（1900年開演）

初任給

巡査18円、教員12～20円、大手の銀行員45円、大工の日当1円の年。120円の女工の珍しくない年が3年程度あった。

② 経営環境の激動

- ・ 複数回の好況と不況、複数回の天災 補1
- ・ 機（ハタ）関連の事業者と全国展開している総合商社の活動との併存
富を築く機関連の資本家、規模を問わない倒産の頻発

③ 米沢大火[1919]を契機に力織機の導入が急速に進む

- ・ 小規模事業所の多さという特性が発現

資本家と労働者という分かりやすい視点で
解釈することに疑問を抱かざるを得ない

概念の選択

- 拠り所となる概念の模索
- 通過儀礼

概念の選択

① 拠り所となる概念の模索 江戸時代末期～

- ・ 労務管理？ 労務理論？
- ・ 西洋の理論で説明し難いことは「日本的経営」？

「作り込みの本質の一面は如何なる製造諸条件にも拘り無く、契約と責任の範囲を超えてあらゆる場合に不良品を供給しないという一種の思想運動」（清响一郎 [1990], p.91.） 自動車部品メーカーの日米比較

② 経営学や労務理論以外の概念の模索

- ・ 多様な文化を有している、米沢以外の地域（新興国を含む）にも適用し得る概念

通過儀礼

通過儀礼

- 通過儀礼の概念
- 通過儀礼（農家）
通過儀礼（商家と職工（町方））
通過儀礼（武家）

通過儀礼の概念

① ファン・ヘネップ[1909]

ある個人の一生は、誕生、社会的成熟、結婚、父親になること、あるいは階級の上昇、職業上の専門化および死といったような、**終わりがすなわち初めとなるような一連の階梯からなっている**のである。これらの区切りの一つ一つについて儀式が存在するが、その目的とするところは同じである。つまり、**個人をある特定のステータスから別の、やはり特定のステータスへと通過させること**に目的がある。（p.14.）

- ・ 民俗学や宗教学における考察対象だが、経営学では殆ど注目をされてこなかった。

② 及川祥平[2020]

各種の「通過」による属性の更新や賦活性を分析する枠組（p.4.）

- ・ 日本ではあらかじめ人生の全体を網羅するものとして意味づけられていた。（p.11.）

通過儀礼（農家） 補2

- ① 村の存続に必須となる能力を満たすことが重要 武田[1990], p.358.
- ② 若年層と一人前との境界
 - ・村の共同体に一員として認められること
- ③ 年貢を納められること、冠婚葬祭を含む村の作法を身につけ振舞えること、労役に耐えられること
- ④ 村落共同体の円滑な運用に貢献できる能力 荏戸・中條[1801]
- ⑤ 飯豊山登拝のように地域特有の儀式をもって、人生の節目を明確にするライフイベント 武田[1990], p.358.

一人前に納税でき、かつ、労役に耐えられること
村落共同体への貢献能力

通過儀礼（商家と職工（町方））

古着や布（古手、古着、太物）の記述が多い。

- ・ 質素儉約を美德とする武家社会の米沢において、呉服店の資料は少ない。

武家社会に組み込まれていた模様。 武田・奥村[1990], p.210.

商家の「一人前」

職と行儀作法の修得

- ・ 主に「見て習う」こと
- ・ 失敗すれば恥をかくという「恥の教育」

職工の「一人前」

職と行儀作法の修得（商家と同様）

- ・ 体面を保ちつつ手に職をつけていた武士と内職として機織をしていた武士の配偶者にとって、俸禄公債による新たな生業を模索するうえで、繊維産業は親和性があったと考える。

見て習う
恥の教育

通過儀礼（武家）概要

- 農家と商家・職人と異なる点を有している
- 明治時代前後で通過儀礼が変化
定める主体が、藩・幕府から華族・国家に移行

通過儀礼を3つに分類

1. 江戸時代
2. 士族授産政策後 下級武士～上級武士
3. 旧藩の武家主導の仕組みの模索と構築 主に華族

通過儀礼（武家） 分類 1

江戸時代

- 上杉藩は軍神の毘沙門天を崇拝 山田[1740]

通過儀礼

- 親から刀一振りと袴や羽織をもらう「元服」の式 武田[1990], p.358.
- 「水包め」 1600年頃～1930年代半 武田[1990], p.363.
目的は米沢藩士族の子弟の錬成
農村の若衆組の行事と全く重なるものだった

元服に至るまでに作法を修得
元服

通過儀礼（武家）分類2

士族授産政策後

- 「卒」はもとより、上級士族の「侍組」の給付であっても従来の生活を維持し難くなる
- 機業に転換した旧藩士は、武家としての通過儀礼の必要性に迫られなくなったと推察

通過儀礼

- 一人前の職工としての技能、または、優れた小規模事業所以上の企業経営者になるための修養

繊維産業にかかる技能の修得
小規模事業所以上の規模の経営者としての資質

通過儀礼（武家） 分類 3 -背景1

日本の立身出世主義 見田宗介[2012]

- 中央（東京）を志向すると同時に家郷（母、故郷）も志向するという準拋集団の両極性 p.197.
- 消極的な面
天皇制国家のうちの諸矛盾をつくろうこと
- 積極的な面
政治上の急激な変革抜きの生産力の急速な発展という支配層の要請に沿う「上からの産業革命」を推進する主体的な条件を用意すること pp.208-220

通過儀礼（武家）分類3-背景2

日本型育英事業の思想 布施賢治[2022]

- [illegible]

通過儀礼（武家）分類3

旧藩の武家主導の仕組みの模索と構築

- 華族（公爵、侯爵、伯爵、子爵、男爵）は、中央集権体制において求められる貢献を果たしながら（米沢士族の新たな身の置き方を含む）米沢の利益を模索。
- 米沢の地を旧家臣団が護りながら優れた米沢の青年を中央（東京）の高等学校や米軍学校に遊学させ、支援者ひいては米沢にその利益を還流させる仕組みを構築。

通過儀礼

- 中央集権体制に馴染む軍人の通過儀礼に移行したことを背景に、中高等学校や軍学校に入学すること、そのうえで、国家の諸分野において名声や影響力を行使できる職位・職階に至ること
- 武家の体面を保つ一環として、経営を学ぶための基礎知識を修得する機会も求められていたとも考えられる

旧藩の名声や影響力を高めつつ米沢の利益を増やせる人材
大企業の経営者としての資質

現在も続いている通過儀礼、
限りなくなかった通過儀礼が混在

到達点と今後の課題

到達点 今後の課題

1. 武家以外の商家、職工、農家における「通過儀礼」は、労働や経営というよりも、家族やコミュニティーにおける一人前として果たすべき務めだった。
2. 旧米沢藩のまとまりを保っている武家における「通過儀礼」は、旧藩や地域に富や名声を還流させる人材（中央政府に影響力を持てる地域就くという官位の更新を遂げて、旧米沢藩と地域を賦活できる人材）になることであった。

到達点

江戸時代後期から大正時代にかけての労働観に相当する行為は労働と経営と権威の混在している状態であり、通過儀礼という観点から説明できる。

今後の課題

米沢以外の地域にも適用可能か否か。

令和時代においても適用可能か否かの検討に至っていない。

参考資料

1. 市村仁[1987],『遠つ祖先を求めて－山形市村氏の系譜－』。(非売品)
2. 及川祥平[2020],「「人生儀礼」考－現代世相への対応に向けて－」,成城大学文芸学部編,『成城文藝』,254, pp.1-25.
3. 小山内誠永次編[1978],『大正期の米織業界を語る』,米沢信用金庫。(非売品)
4. 小野榮[1990],「生業－織物業－」,米沢史編さん委員会編,『米沢市史 民族編』, pp.194-205., 米沢市長 (高橋幸翁)。
5. 鈴木清[2017],「東北の民家」,東北芸術工科大学東北文化研究センター編,『環境動態を視点とした地域社会と集落形成に関する総合的研究平成24年度～平成28年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業研究成果報告書』。
6. 鈴木商店記念館[2024]「人造絹糸の開発、帝人の設立」 (<https://www.suzukishoten-museum.com/footstep/history/cat3/cat2/>)。
7. 鈴木亮・鈴木仁[1990],「生業－養蚕－」,米沢史編さん委員会編,『米沢市史 民族編』, pp.177-193., 米沢市長 (高橋幸翁)。
8. 清昶一郎[1990],「日本的品質管理の2つの特質とその海外移転可能性について－北米日系自動車部品生産の現状と直面する困難の性質－」,日本中小企業学会編,『日本中小企業学会論集 9－世界の中の日本中小企業－』, pp.77-94., 同友館。

参考資料

9. 武田正・奥村幸雄[1990],「年中行事」,米沢史編さん委員会編,『米沢市史 民族編』, pp.207-290., 米沢市長（高橋幸翁）.
10. 武田正[1990],「人の一生」,米沢史編さん委員会編,『米沢市史 民族編』, pp.291-後頁ページ確認., 米沢市長（高橋幸翁）.
11. 中牧弘允・安達義弘・石井研士・村上興匡・山田慎也 [2001],「サラリーマン通過儀礼に関する宗教学的的研究」,国立民族学博物館・先端民俗学研究部.
12. 農商務省商工局[1903],『綿糸紡績職工事情』（<https://dl.ndl.go.jp/pid/801149/1/48>）. 閲覧日2024年9月29日
13. 荏戸義政・中條至資[1801],「農家伍什組合掟書」（<https://www.library.yonezawa.yamagata.jp/dg/KK006.html>）. 閲覧日2024年9月29日
14. 農商務省商工局[1903],『綿糸紡績職工事情』（<https://dl.ndl.go.jp/pid/801149/1/48>）.
15. 荏戸義政・中條至資[1801],「農家伍什組合掟書」（<https://www.library.yonezawa.yamagata.jp/dg/KK006.html>）. 閲覧日2024年9月29日
16. ファン・ヘネップ[2012],『通過儀礼』,綾部恒雄・綾部裕子訳,岩波文庫. （Arnold van Gennep[1909], "Les rites de passage", Étude systématique des cérémonies, Librairie Critique, E. Nourry.

参考資料

16. 布施賢治[2022b],『「日本型」育英事業の思想－尚武と錬成の近代－』,日本経済評論社.
17. 布施賢治[2022a],「米沢人としての在り方－天職労働との関係から－」,千葉商科大学経済学研究所「労働観の変遷プロジェクト」勉強会.
18. 見田宗介[2012],『定本 見田宗介著作集Ⅲ－近代化日本の精神構造－』,岩波書店.
(見田宗介[1971],『現代日本の心情と論理』,筑摩書房.)
19. 山田近房[1740],「米沢雑時記」 (<https://www.library.yonezawa.yamagata.jp/dg/HF058.html>). 閲覧日2024年9月29日
20. 山形県立米沢女子短期大学附属被服研究所[1990],「衣生活」,米沢史編さん委員会編,『米沢市史 民族編』,pp.523-後日ページ確認.,米沢市長(高橋幸翁).
21. 養桑方[1806],「養蚕手引」 (<https://www.library.yonezawa.yamagata.jp/dg/AB629.html>). 閲覧2024年9月29日
22. 渡部恵吉・小沢静夫編[1980]『米澤織物史』,米沢織物協同組合連合会.
23. 米沢市[2024]「令和2年 米沢市の工業 工業統計調査結果報告書」 (<https://www.city.yonezawa.yamagata.jp/soshiki/2/1006/6/2/1/6114.html>).

補足資料 1

表. 米沢における大正期の経営環境.

西暦（元号）	月	事象	特徴	好況 不況
1876（明治 09）年	08	金禄公債の交付	下級士族の機業が増加	
1894～1895 （明治 27～28）年		日清戦争		
1904～1905 （明治 37～38）年		日露戦争		
1914（大正 03）年	07	開戦 第一次世界大戦		不
1917（大正 06）年	上半期			好
1917（大正 06）年	05	米沢大火	織機の消失	不
	下半期	力織機の導入進展	機成金の出現 労働者の豪遊 小規模事業所の多い地域に	好
1918（大正 07）年	11	終戦 第一次世界大戦		好
1920（大正 09）年	03	戦後恐慌 生糸大暴落	日本の輸出減少（欧州回復） 倒産が急増	不
1921（大正 10）年				好
1923（大正 12）年	09	関東大震災（震災恐慌）	銀行の融資申請下り難い 殆どの買継商が倒産	不
1926（大正 15）年		保証責任米沢織物製造信用販売 購買組合（信組合）設立	米織存続の危機	不
1929（昭和 04）年	10	ウォール街大暴落		不

（出所）小山内誠永次[1978]に基づき筆者作成.



補足資料 2

表. 近代農家の種別仕事量.

仕事種	仕事量	
藁	縄 40 尋/夜。300 尋/日 トチ網 8 本/日 荷縄 4 本/日 細縄 500 尋/日	足高草履 12 足/日 草鞋 10 足/日 馬杓 12 足/日 蓑 1 着/1 日半～2 日
田	田うない・田小切り・田植え 乾田 5 畝/日 湿田 1 反/日 除草 3 回	苗取り 600～1,000 把 稲刈り 1,200 把 (6 把 1 束) 稲背負い男 60 把/回 女 36 把/回 米搗き 2 俵/日から短縮
畑	畑うない 5 畝/日 畑がえし 3 畝/日 中耕 1 反/日	豆まき 1 反/日 桑こき 25 貫程度 (葉のみ)
山	割木 0.5 タラ/日 (5 尺×3 尺)	
針 (女性)	浴衣・袷・綿入れ・機織り・袖取りなど 一応の分量はあったが楽な量から過酷な量まで一律ではない	

注：何年における仕事量かは明記されていないが、江戸時代から牛馬や薪の使われていた時代と考えられる。

注：1 尋=両手をひろげた長さ。1 反=約 1,000 m²(10a)=10 畝。1 俵=約 60 kg。

1 貫=約 3.75kg につき、25 貫=93.75 kg。

1 尺=約 30.3 cm につき、5 尺×3 尺=151 cm×91 cm。

注：田畑や山仕事は、土地の環境に応じて差異を有している。

注：農業機械の普及するまで、上記の仕事量は昭和初期まであまり変容しなかった。

(出所) 武田正[1990], pp.364-366 に基づき筆者作成。

